

教 育 目 標		心豊かに生きぬく子どもを育てる													
各 部 会		まなび・知チーム				こころ・徳チーム				からだ・体チーム					
各 部 会 活 動 視 点		学びが学校で高まり、家庭で深まり、地域で広がる取組の推進				人や物との関わりを通して心を育てる道徳教育の推進				元気な体をつくる食育・体育の推進と生活習慣の定着					
1 取組項目 (各チームの重点目標)		■授業づくり① ■家庭学習 ② ■読書活動 ③ ■地域人材 ④				■あいさつ運動⑤ ■体験活動 ⑥ ■生徒指導 ⑦ ■道徳教育 ⑧				■体力づくり⑨ ■食育 ⑩ ■生活習慣 ⑪					
2 学校評価の結果	知	徳	体	児童	保護者	教職員	地域	児童	保護者	教職員	地域	児童	保護者	教職員	地域
肯定率(%)	①	⑤	⑨	96	80	100	91	89	84	85	90	86	88	100	100
Aよくあてはまる	②	⑥	⑩	92	92	100	100	87	78	100	100	91	87	100	100
Bややあてはまる	③	⑦	⑪	77	90	100	100	89	68	100	90	85	82	100	100
	④	⑧		92	84	85	82	95	69	92	80				
3 取組の成果		①「教えて・考えさせて」の学習過程を意識した授業改善の積み重ねにより、児童・保護者の肯定率が上昇している。 ②家庭学習、予習は定着してきている。家庭学習の発達段階に応じたレベルに到達した児童が増えつつある。 ③読み聞かせ活動等を継続して行ったが、学校図書館職員の未配置の影響もあり、児童の読書への関心・意欲の向上につながらなかった。読書習慣のついていない児童とついていない児童が固定化してきている。 ④地域では、さまざまな項目で肯定率が高く、温かい見守りを感じる。				⑤11月のあいさつ運動強化月間を昨年度に引き続き実施した。2年目であることもあり、児童保護者共に意識が高まってきた。 ⑥今年度も、伊佐学や校外活動、ふれあい給食、友遊タイムなど多くの体験活動を行い、児童が楽しみにしている。 ⑦毎週金曜日に児童理解の会を実施していることで教員間の情報共有ができており、他クラスの児童にも気を配ったり、素早い対応をしたりすることができた。 ⑧異学年交流や生きもののふれあいなど多くの体験活動を行うことで、優しさが育っている。				⑨体力づくりと食育をリンクした「世界一周遊びの旅」や走る時間を伸ばしたことで、走る意欲を高めた。「めざスポ」で色々な運動の動きを紹介し経験させたことで体の動かし方が理解できた。 ⑩栄養士や給食委員会が給食指導を行ったり、掲示物を工夫したりすることで、食の関心を高めることができた。小中一貫の目標のもと、食育に取り組めた。 ⑪グ〜グ〜チャレンジを計画的・継続的に行うことで日常生活のふりかえりと改善につながっている。小・中学校で、実施時期のすりあわせをしたことで、相互作用・波及効果も出た。					
4 取組の課題		①理解深化課題等を児童の意欲を高める授業改善をしたい。 ②家庭学習の発達段階に応じたレベルに到達していない児童への取組が課題である。 ③昨年度の読書活動への取組を継続できないものがあつた。そのため、児童の肯定率が低下している。 ④話の内容や時間等についての打ち合わせの時間確保がむずかしい。				⑤学校などで人に言われるとできている児童が多いが、進んでするのは難しい。 ⑥リーダーとなる6年生の力によるところが大きい。 ⑦毎週木曜日に実施している振り返りカードに書かれていないことにも目を向け、気付くことが難しい。 ⑧道徳の時間で学んだことが日常生活の中でいかされるようにしていかなければならない。				⑨体づくりには運動の日常化が必要なので、縦割り班・学級遊びを奨励したり、児童や保護者へ継続して啓発を行う必要がある。今後も、体力テストの結果を生かした取組を行う必要がある。 ⑩グ〜グ〜チャレンジではみそ汁を推奨することに取り組めなかった。給食指導については今後も継続実施し、習慣化を目指す。 ⑪グ〜グ〜チャレンジを継続し、形骸化しないように工夫した生活習慣チェックを今後も行う。					
5 改善策		①基礎・基本の定着をめざして、さらなる授業改善を全校体制で継続していく。小中共同取組の「めあて」と「振り返り」をつなげた授業づくりをしていく。 ②「やまぐちっ子学習プリント」「課題克服プリント」を活用しての基礎・基本の定着、活用力の育成を目指していく。日々の授業とのリンクや理解深化問題作成の工夫が必要である。 ③図書館担当教員を強く希望し、魅力ある読書環境づくりを進めていく。 ④伊佐学の内容や学習支援ボランティア等の活動の仕方を広げていき、「ふるさと伊佐」について体系的・継続的に学習するために「地域カリキュラム」を活用していく。				⑤いつでも、どこでも、誰にでもあいさつができるように、学校だけでなく家庭と協力して言葉かけをしていく。 ⑥人数が減っていくので、少人数で楽しめる工夫をしていく。6年生のリーダーシップを育てる。 ⑦学校の取り組みを学校だよりを通して発信していく。 ⑧学習だけでなく、多くの活動を通して自分の心を向き合える時間を確保していく。				⑨運動の日常化に向け、遊びの紹介をしたり、「めざスポ」で色々な運動ができるように工夫する。 ⑩グ〜グ〜チャレンジでみそ汁の推奨に取り組み、朝食内容の改善を行う。学年に応じて理解しやすい食育指導を行うとともに指導内容について担任・家庭と情報共有をする。 ⑪生活習慣の定着に向け、グ〜グ〜チャレンジの項目の見直しを行う。					